全国いか加工業協同組合

全国いか組合報

No. 631

令和3年1月1日発行

スルメイカ　FAO名（英）：Japanese flying squid　市場名：マイカ，マツイカ，ムギイカ，トンキュウ，ガンゼキ（地方名）

ML 30cm。外套膜は筋肉質で外套膜の背中線上に暗色の縦帯がある。鰭は幅広の菱形である。漏斗溝には縦溝があるが、側部のポケット様嵌はない。漏斗軟骨器が⊥型。腕の大吸盤角質環には鋭い歯があるが、基部寄りの縁は平滑。雄の右Ⅳ腕の先端部はやや偏圧され櫛歯状の肉嘴列となる。触腕の大吸盤には鋭い円錐形の歯と低い板状の歯とが交互に並んでいる。最南端の記録はホンコン。北限はカナダの記録がある。

新編 世界イカ類図鑑 P.189より抜粋（奥谷喬司著／全国いか加工業協同組合刊）［写真：堀川博史］

組合報第631号　目次

令和3年（2021年）1月

全いかニュース

1. いか関連 新聞記事（抜粋）……1

2. 官公庁等からのご案内
・資源管理方針に関する検討会（スルメイカ全系群）の報告……4

3. 事務局だより……9

統　計

I.　2020年10月分　全国イカ水揚集計表（全漁連）……10

II.　いか類輸入　国別通関実績　2020年11月　―財務省貿易統計より―……11
(1) 冷凍いか（除くもんごう）
(2) 乾燥・塩蔵・塩水漬け
(3) 調整品

III.　農林水産統計……14
1. 産地水産物流通統計　令和2（2020）年10月
(1) 月別上場水揚量・価格
(2) 累積上場水揚量・価格
(3) 漁港別水揚量・価格
2. 冷蔵水産物流通統計　令和2（2020）年10月
(1) 月間入・出庫量及び月末在庫量

＜いか関連　１／１０～　新聞記事の概要＞

みなと新聞（１２月１０日）　水産経済新聞（１２月１４日）
スルメイカ１０月水揚量７割増　生鮮５６％増、冷凍３倍超え　全漁連まとめ
ＪＦ全漁連がまとめた１０月の国内スルメイカ水揚量（生鮮・冷凍含む）は前年同月比７１％増の６９０３トンだった。生鮮は三陸地区でのトロール物の水揚げが好調で５６％増の５７６９トンを記録。冷凍は日本海地区への入船が１０月にずれ込み、３・３倍の１１３５トンと大幅に伸びた。
　生鮮物は、三陸地区で２・４倍の２９１１トンを水揚げした。うち、青森県八戸は２２％増の１０６５トン、岩手県久慈・宮古・山田は９・７倍の１２１７トン、宮城県石巻・女川は２・７倍の５８６トンだった。石川などが伸長した日本海地区は５７％増の５５１トン、九州地区は１１・２倍の３４８トンだった。北海道は６％減の１９５９トン。
　冷凍物は、八戸で８・３倍の１４１トンを水揚げ。日本海地区は３・３倍の９９１トンで、うち山形が９７％増の４０１トン、石川が６・８倍の５２８トンだった。
　水揚量の増加などから、１０月の平均キロ単価は生鮮物が２８％安の５８９円、冷凍物は２９％安の７１５円となった。

水産経済新聞（１２月１０日）
【八戸】サバも伸びず、イカも低水準（２０年水揚げ集計）
＜スルメイカ＞釣りが増加、相場は修正
巻き網、トロールが伸び悩んだが、釣りは生鮮、冷凍ともに前年を上回った。
＜アカイカ＞２年連続で高水準供給
水揚げは前年比９％減で約６５３０トン。平均単価は２割安の３６８円と下がった。
コロナ不況によるアメアカの相場が弱含んだ影響を受けた。

みなと新聞（１２月１１日）
相互入漁枠合意、前年と同量９万トン　対ロ地先沖合交渉妥結
水産庁は１０日、日ロ地先沖合漁業交渉が妥結したと発表、２０２１年の両国の相手国２００カイリ水域での漁獲枠は前年と同じ９万トンずつとなった
　日本がロシア水域で認められた入漁枠は、サンマが７万９２７・４トン、スルメイカが５８１４・２５トン、マダラが８１０トンで、いずれも前年と同量。総隻数は７隻減って５８５隻となった。日本漁船のロシア水域での有償操業については、漁獲枠・見返り金とも前年と同じ１０６２・２トン、４１１２・２万円となった。

水産経済新聞（１２月１７日）　みなと新聞（１２月１８日）
石川県　スルメイカ水揚げ１８％減　２１年１～３月定置見通し
石川県水産総合センターは１５日、来年１～３月の定置網によるスルメイカ漁の見通しを発表した。同センターは県内水揚量を前年同期比１８％減の３４２トンと予測。過去５年平均（３６１トン）並みとした。定置網は年変動が大きく、海水温が関係している。過去２０１８年の１～３月水揚量と１月の５０メートル深水温の関係を調べると、能登半島北沖と秋田県西沖の平均水温が低いほど、水揚量が多い傾向にあるという。

来期スルメイカＴＡＣ据え置き　水産庁　５万７０００トン提案
水産庁は１７日、東京都内でスルメイカの資源管理方針に関する検討会を開き、２０２１年漁期（２１年４月～２２年３月）の生物学的許容漁獲量（ＡＢＣ）と漁獲可能量（ＴＡＣ）について、いずれも２０年漁期と同量の５万７０００トンとする案を示し、参加した漁業関係者らからおおむね了承を得た。ただし、漁業者からは政府が諸外国に資源管理を促すことを求める意見や、２０年漁期と同量とする根拠について疑問視する声も上がった。
　検討会で、水産研究・教育機構は直近の資源評価結果と２１年のＡＢＣ案を解説。１０年後の３０年に目標を超えるためには、スルメイカ冬季発生系群については漁獲ペースβを０・６とした場合のＡＢＣ案が２０年推定漁獲量比８割減の０・９万トン、同秋季発生系群についてはβを０・９とした場合のＡＢＣ案が同１５％減の１８・７万トン（いずれも外国の漁獲を含んだ値）となることなどを示した。

みなと新聞（１２月２２日）
韓国が近海網スルメイカをＴＡＣ規制へ
韓国海洋水産部はこのほど、近海網漁業によるスルメイカ漁獲を漁獲可能量（ＴＡＣ）規制対象に組み込む立法の予告をした。これまで規制の対象外となっていた近海網漁業のスルメイカ漁獲が増加しやこと、一方で、ＴＡＣの内数として規制されることで、業界は既存のＴＡＣ対象漁船の配分割合が削除される可能性を懸念している。
　近海網漁船の主な対象魚種はこれまでイシモチだったが昨年、イシモチ資源の禁漁期間中、特に流刺網の一部船団がスルメイカ漁獲に向け漁具を改良、スルメイカ操業を開始した。今年は価格が高騰すると、最初からイシモチ操業よりスルメイカ操業に軸足を置くこととなった。このため、沖合イカ釣より漁獲圧力が高いなどの指摘、不満が関係業界から噴出した。
　事実、近海網漁船のスルメイカ漁獲量は年々増加しており、２０１８年に４８０トンだった同漁船のスルメイカ漁獲量は１９年には２５００トンまで増加、今年は１０月までに５０００トンを超えている。さらに問題なのは、近海網漁

船４０３隻のうち、スルメイカを漁獲する船団隻数がまだ半分という点。全ての近海網漁船がスルメイカ操業を開始すると、漁獲圧力は想像以上なものとなる。

みなと新聞（１２月２６日）
豊洲市場　生鮮スルメイカ前年超４５７９トン　１～１１月　コロナ影響受けず価格維持
２０２０年の豊洲市場への生鮮スルメイカの入荷量は１１月末で前年を上回った。東京都によると、１～１１月の入荷量は前年同期比５０％増の４５７９トンで、既に１９年年間の３４００トンを超えた。平均価格はキロ７６５円で、１９年比で３％安となっている。
２０年は新型コロナウイルス禍が水産業界に暗い影を落としたが、「スルメイカは大衆魚のため（魚価低迷などが深刻だった高級魚と比べ）影響は少なかった」

生鮮スルメイカ　年間１割増２．９万トン　２４日 金沢や宮古、石巻けん引
今年の生鮮スルメイカ水揚量は２０１９年の実績を上回った。漁業情報サービスセンターによると、１２月２４日までの全国主要港の累計水揚量は２万８５８８トンと１９年実績から１０％増となった。来遊量が増加して漁獲が進み、「日本海側と太平洋側での水揚量が増えた」。１２月の全国主要港の水揚量は前年を下回る見込みで前年比１４％減の１２９１トンだった。１２月中旬から主に日本海側でシケが続き「操業船数が減った」ためで、主な水揚げ港は宮古と石巻で、１尾２４０～３００グラムを主体に定置網物や底引網物を水揚げする。

水産経済新聞（１月１日）
冷イカ　久々の相場軟化でアメアカの搬入増加
冷凍イカ（１～１０月）の輸入は前年比２％増の７．４万トン高止まりしていた価格はコロナの影響もあり軟化の傾向。特にアメアカは南米から中国への輸出の需要が低下して、あふれた分が日本に流れた（卸）。フィレーで２００円台、耳が１５０円前後までダウンした。

水産タイムズ（１月４日）
１０月のスルメイカ　水揚げは７１％増（平均単価は３割安）
１０月の国内スルメイカ水揚集計は前年同月比７０．７％増の６９０３トンだった。そのうち生鮮は５５．９％増の５７６９トンを記録。冷凍は３・３倍の１１３５トンと大幅に伸びた。
１０月の平均キロ単価は２６．７％安の６１０円となった。

以　上

資源管理方針に関する検討会（スルメイカ全系群）報告書

日時：2020年12月17日（木） 10：00～16：00
場所：フクラシア東京会議室 H
全いか参加者：韮澤 新太郎

参考資料：別紙水産庁作成議事録
会議資料：以下の URL よりダウンロード可能
https://www.jfa.maff.go.jp/j/study/kentoukai.html

＜会議の概要＞
2021年漁期（21年4月～22年3月）の生物学的許容漁獲量（ABC）と漁獲可能量（TAC）について、いずれも20年漁期と同量の5万7000トンとする案を示し、参加した漁業関係者らからおおむね了承を得た。ただし、漁業者からは政府が中国他の諸外国に資源管理を促すことを求める意見や、20年漁期と同量とする根拠について疑問視する声が上がった。

検討会で、水産研究・教育機構は直近の資源評価結果と21年のABC案を解説。10年後の30年に目標を超えるためには、スルメイカ冬季発生系群については漁獲ペースβを0・6とした場合のABC案が20年推定漁獲量比8割減の0・9万トン、同秋季発生系群についてはβを0・9とした場合のABC案が同15％減の18・7万トン（いずれも外国の漁獲を含んだ値）となることなどを示した。

漁業者団体からは、中国や北朝鮮など諸外国による違法・無報告・無規制（IUU）漁獲が多いことなどを指摘し、日本政府が外国への資源管理を呼び掛けるよう求める声、日本のみの漁獲を強く規制することを疑問視する声などが上がった為、水産庁は、ABCとTACを今漁期と同量とする案を提示。理由として、スルメイカは寿命が1年と短く資源状況の予測が難しい上、中国など近隣諸国の漁獲量を正確に把握することも難しいことを挙げた。

以 上

資源管理方針に関する検討会
（スルメイカ全系群）

1．日程　　令和2年 12 月 17 日（木） 10:00～15:30
2．場所　　フクラシア東京ステーション　会議室H
3．出席者
水産庁：藤田資源管理部長、畫間管理調整課補佐、藤原管理調整課補佐、
上田漁場資源課補佐、梅田国際課補佐、鈴木（兵）補佐、ほか
水研機構：田中水産資源研究所所長、西田水産資源研究センター浮魚資源部長、
大島副部長ほか
このほか漁業者、漁業者団体、研究者、行政官、報道関係等、ウェブからの参加者を含め計約 120 名
4．概要
（1）水産庁より、資料4『新たな資源管理について』を用いて、改正漁業法下における新たな資源管理の基本的な考え方について説明。
（2）水研機構より、資料５－１『スルメイカの「新しい資源評価」について』を用いて、資源評価に係る基本事項について説明。
（3）水研機構より、資料５－２『スルメイカ冬季発生系群資源評価更新結果』を用いて、スルメイカ冬季発生系群の資源評価結果について説明。
【主な議論】
- 漁獲量の各国の構成比を教えて欲しい。
- 資源評価の指標に用いている、小型イカ釣り船のデータの海域・時期はどのようなものか。
- 5年間は低加入が続くが、その後好転すると仮定しているとしているが、その想定の根拠は何か。
- 環境的な要因ではなく、周期的な要因なのか。
- 海外では単年性の魚種について同じような資源評価が行われているのか。
- マイワシのように2つに加入期を分けるという検討は行われたのか。
- 2050 年にMSYを達成する確率について、日本が管理をした場合の確率であり、他国が漁獲を続けた場合には、確率が減ると考えてよいか。
- 資源回復を目指すためには、日本以外の国への働きかけが重要ではないか。
- ロシアの漁獲の変動はどのようになっているのか。

（4）水研機構より、資料５－３『スルメイカ秋季発生系群資源評価更新結果』を用いて、スルメイカ秋季発生系群の資源評価結果について説明。
【主な議論】
- ①日本と韓国の漁獲量を教えて欲しい。②韓国が二そうびきで獲っていると聞いているが、朝鮮半島の西側の分布はどうなっているのか。③韓国がロシアの沿海水域において枠を持っているがこれも漁獲量データに含まれているのか。④北朝鮮の漁獲はどうなっているのか。

- 中国の漁船が北朝鮮水域で漁獲している分も中国の漁獲の仮定に含まれているのか。
- 資源評価の推定値の変動について、他の魚種や冬生まれにもありうることなのか。
- ①系群ごとに異なる限界管理基準値の設定について、丁寧に説明いただきたい。②2020 年の実測値を取り入れることにより大きく変化したが、これは毎年あり得ることなのか。
- 推定の変動は、加入量予測によるものが大きいということか。調査の時期等を教えていただきたい。
- ①2つの系群で再生産関係のモデルが異なるが、生物学的な要因は何か。②推定と実測で変動があるのは理解するが、2022 年以降に実測値を基に、2021 年が修正され得るのか。
- 秋季発生系群の海洋環境が不適ということについて具体的に説明してほしい。
- 2021 年の漁獲が 18.7 万トンとされ、中国の漁獲が含まれていると考えると、昨年までの数字からの飛躍を考えると、現場として納得できる数字ではない。そこまで資源はいるのか。
- 18 万トンがTACとされたら、沿岸漁業者の生活が成り立たなくなる。
- 今後、マサバのような資源も含め、再生産関係にホッケースティック以外の型が採用されることはあるのか。

（5）田中水研機構水産資源研究所所長より発言：資源評価の更新結果を総括し、スルメイカは単年性の魚種であり、資源量の予測はその年の再生産の成功・不成功で決まってくることから、将来の予測が非常に困難。日本以外の国の漁獲があることも、資源評価を難しくする。データを更新すると、変動することが避けられないため、この点について改めて御理解いただきたい。今後も資源評価の手法の改良を検討し、変動の解明に向けた調査の拡充、資源評価の向上を図ってまいりたい。

（6）水産庁より、資料6『漁獲シナリオの検討について』を用いて、スルメイカの管理をどのようにしていくのかの検討について説明。

【主な議論】

- 親魚を様々な国が漁獲している。平成 20 年より、イカの資源が減少している。大和堆における中国・韓国・ロシア・北朝鮮の対応をどのようにすべきかが課題。ここにいるスルメイカは、4，5日で産卵場に移動する。年々産卵場が北に移動していると感じている。こうした状況を調査しているのか。
- スルメイカ資源は単年魚であり、他のTAC魚種と異なる。漁獲の多くは中国が漁獲している。中国は沿岸国ではなく、日本の 10 倍漁獲されているとされているが、データも取れない。こうした状況の中、自国の資源管理を適切に行っていくというのは、認識がずれている。まず国としての方針がしっかり示され、中国等との働きかけの結果が出てきた段階で、こうした文言を書くべき。TACについては、この状況が整理されるまで、変動させるべきではないと思う。
- スルメイカの管理では、我が国が外国に対してどのように対応していくのかが重要。

日本の取り分を忖度した資源評価から、全体の資源評価になったと理解。日本漁船が獲っていい量なので、わざわざ外国分を忖度して漁獲を減らそうというのは、理解できない。研究機関の姿勢として、来年以降でないとできないという姿勢はいかがなものか。出来るものができた段階で、しっかりと公表していくという姿勢が大事だと思う。

- ①スライド4の実行上の柔軟性を高める措置とは何か。②親魚量は、生残した親魚量ではなく、産卵場に戻ってきた量とすべきではないか。③北朝鮮の漁獲の影響はどの程度あるのか。
- スルメイカを1つで管理すると、どちらかの系群を獲りすぎてしまうことにならないか。
- 海洋環境等で、資源量の変動が激しいものと思う。TACの設定に当たっては、慎重に、常識的に進めてほしい。
- 欧米の事例というのはどのようなものがあるのか。うまくいっている例はないのか。
- 資源は減少していると認識している。外国の漁獲が多い中、TACが少ない数量を出されると、途中で日本漁船の操業を止める必要が出てくる一方で、外国漁船は操業を継続するという状況は、避けなければいけない。こうした状況の中でのTAC管理をどのようにしていくのか。

（7）藤田資源管理部長より、これまで議論の総括として、以下の点を挙げた。

- 我が国漁船による漁獲割合の減少が進む中、関係する外国等との適切な資源管理措置の実施を踏まえたTAC管理を進めることが重要との指摘があった。この点は、外国との交渉なので、公の場で具体的な内容を言及するのは適切ではないが、しっかり努力していく。
- 研究機関として、資源評価精度の向上に努力されてきたことは評価。他方、今回の資源評価を踏まえてTACの設定を行うことは、間違ったメッセージになるとの指摘があった。
- 資源評価について、単年生の資源であるが故の難しさ、変動の大きさが、管理の方法にも関連して、改善を進める必要がある。

このような意見を踏まえ、今回は、暫定的に昨年のABC及びTACをそのままとし、今回の指摘及び新しい資源評価結果を踏まえ、再来年度以降のTACについて検討するSH会合を開催し、再度の検討をするということを水産庁として提案した。

【主な議論】

- 昨年のABCを使うという根拠はないのではないか。昨年のABCを出した算出方法を用いて、資源評価を行うのはどうか。従来と同じ方法で更新しているデータがあるのに、一昨年のものを使うのは納得がいかない。使っているβは同じではないか。資源評価の見直しは 2021 年ではなく、2022 年のTACを設定するときにステークホルダー会合を開催するということか。

（8）検討会の結果、令和3年漁期のTACは、暫定的に前年同の 5.7 万トンとすること、資

源評価等の進捗を踏まえ、来年度に再度資源管理方針に関する検討会を開催することが取りまとめられた。

以上

事務局だより　令和３（２０２１）年１月１０日

　皆さま新年あけましておめでとうございます。
旧年中は大変お世話になりました。この場をお借りしまして深く御礼を申し上げます。
さて、今年 2021 年「辛丑（かのと・うし)」。痛みを伴う衰退と、新たな息吹が互いに増強し合う年になると言われております。まさにコロナ禍が納まり、新たな希望を持てるスタートを切る年となれればと期待も込めて考えております。

　２０２０年度は、コロナ禍による活動制限も多々ある年度ではありますが、逆に研修のリモート化など環境変化がもたらした成果も意外に多かったという印象です。
２０２１年度も同様な環境が予想されますが、干支の様に期待を持てる新たなスタートを切ることが出来るように準備を心がけたいと考えます。

　我々事務局一同も厳しい環境であることを十分に理解しながら「組合員の皆様の為になる仕事」を基軸として、少しでもお役に立てるよう、少しでもご期待に応えられる様、進化してまいる所存ですので、是非とも建設的なご意見、ご要望をご提案頂きたく、お願いいたします。
２０２１年がさらなる組合の発展の一歩となりますように、引き続きのご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

＜今後の主なスケジュール＞
３／２　第３回理事会（２月の予定が延期になりました）
３／初　「いか」の輸入割当て発給予定
４／初　新年度第１回理事会開催予定
５／１４　通常総会（熱海）予定

以　上

Ⅰ．令和２（２０２０）年10月　全国イカ水揚集計表（全漁連）

単 月　10月　　単位　数量：トン　単価：円／ｋｇ

種　類	２０２０年10月						２０１９年10月					
	生鮮		冷凍		合計		生鮮		冷凍		合計	
	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価
スルメイカ	**5,769**	**589**	**1,135**	**715**	**6,903**	**610**	**3,701**	**816**	**343**	**1,002**	**4,045**	**832**
NZイカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ＳＡイカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アカイカ	0	0	1,089	330	1,089	330	1	574	425	430	426	430
ペルー赤イカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他イカ（トビイカ）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小　計	5,769	589	2,224	526	7,992	572	3,702	816	768	685	4,471	794
輸　入					9,895						8,752	
合　計	5,769		2,224		17,887		3,702		768		13,223	

累 計　1月～10月　　単位　数量:トン　単価:円/Kg

種　類	２０２０年１月～10月						２０１９年１月～10月					
	生鮮		冷凍		合計		生鮮		冷凍		合計	
	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価
スルメイカ	**25,401**	**547**	**3,802**	**782**	**29,203**	**578**	**19,964**	**617**	**2,907**	**780**	**22,871**	**638**
NZイカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ＳＡイカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アカイカ	10	352	6,765	365	6,775	365	14	518	7,149	455	7,164	455
ペルー赤イカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他イカ（トビイカ）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小　計	25,411	547	10,567	515	35,978	538	19,978	617	10,056	549	30,035	594
輸　入					74,134						72,400	
合　計	25,411		10,567		110,112		19,978		10,056		102,435	

資料:全漁連,財務省貿易統計

Ⅱ.いか輸入　国別通関実績　令和２（２０２０）年11月

（１）冷凍いか（除くもんごう）

国名		令和２年11月合計		令和２年１月～11月累計		令和元年11月合計		令和元年１月～11月累計	
		数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円
1	韓国	6,240	4,266	153,296	128,410	127,775	78,350	1,231,253	742,833
2	中国	3,464,985	2,285,337	38,183,633	23,736,687	5,923,687	3,398,159	43,924,447	25,848,842
3	台湾	0	0	72,340	33,499	0	0	826,358	557,647
4	香港	0	0	0	0	0	0	0	0
5	ベトナム	224,520	245,751	2,598,281	2,729,942	226,762	238,025	2,668,493	2,765,930
6	タイ	110,743	152,845	1,787,615	2,437,624	198,555	310,616	1,809,406	2,632,691
7	マレーシア	4,912	5,621	47,511	46,389	0	0	77,991	86,835
8	フィリピン	55,745	70,225	880,609	1,077,785	82,796	106,992	1,126,751	1,570,506
9	インドネシア	54,600	70,677	506,558	604,547	56,635	60,196	542,979	683,174
10	カンボジア	0	0	0	0	0	0	0	0
11	ミャンマー	17,774	24,802	243,008	322,137	1,000	555	64,755	75,306
12	インド	46,747	41,679	952,255	1,046,696	95,334	91,910	1,211,712	1,393,065
13	パキスタン	5,193	9,017	10,996	19,614	5,496	6,162	19,774	23,561
14	スリランカ	0	0	157,238	180,518	8,806	14,165	265,807	304,633
15	イラン	0	0	0	0	0	0	0	0
16	オマーン	0	0	0	0	0	0	0	0
17	デンマーク	0	0	0	0	0	0	0	0
18	英国	0	0	0	0	0	0	0	0
19	フランス	0	0	0	0	0	0	0	0
20	スペイン	0	0	24,635	9,502	0	0	97,986	32,451
21	ロシア	796,773	306,126	3,438,930	1,570,295	1,884,561	748,528	1,977,166	772,343
22	ギリシャ	0	0	0	0	0	0	0	0
23	アメリカ	2,213,594	627,907	6,851,922	2,374,219	2,673,805	857,592	7,102,980	2,315,664
24	メキシコ	0	0	0	0	0	0	0	0
25	パナマ	0	0	0	0	0	0	0	0
26	カナダ	207,426	64,422	461,031	148,883	127,350	42,777	127,350	42,777
27	セントビンセント	0	0	0	0	0	0	0	0
28	エクアドル	0	0	0	0	0	0	23,500	5,620
29	ペルー	3,179,051	464,951	15,427,222	3,205,490	822,185	204,223	15,060,770	3,762,054
30	チリ	73,780	14,509	8,229,451	1,932,006	399,679	95,041	3,076,803	925,723
31	ウルグアイ	0	0	0	0	0	0	0	0
32	アルゼンチン	229,625	121,242	4,006,733	1,856,538	183,329	117,728	3,244,266	1,273,276
33	フォークランド諸島及びその付属諸島	21,714	20,132	185,514	155,653	46,870	28,221	380,002	242,193
34	モロッコ	0	0	140,222	179,582	88,066	128,746	131,742	196,138
35	カナリー諸島（西）	0	0	210	330	0	0	0	0
36	モーリタニア	0	0	0	0	0	0	0	0
37	ガーナ	0	0	0	0	0	0	0	0
38	セネガル	0	0	0	0	0	0	22,948	7,788
39	ソマリア	0	0	0	0	0	0	0	0
40	南アフリカ共和国	0	0	0	0	0	0	16,347	19,312
41	オーストラリア	0	0	0	0	0	0	0	0
42	パプアニューギニア	0	0	0	0	0	0	0	0
43	ニュージーランド	2,000	2,724	490,458	192,808	67,560	35,880	388,884	197,684
合計		10,715,422	4,532,233	84,849,668	43,989,154	13,020,251	6,563,866	85,420,470	46,478,046

Ⅱ.いか類輸入　国別通関実績　令和２（２０２０）年11月

（２）乾燥・塩蔵・塩水漬け

国　名		令和２年11月合計		令和２年１月～11月累計		令和元年11月合計		令和元年１月～11月累計	
		数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円
1	韓国	0	0	0	0	0	0	0	0
2	中国	132,864	247,144	1,868,191	3,630,074	332,535	744,561	2,057,423	4,226,686
3	台湾	0	0	0	0	0	0	0	0
4	ベトナム	0	0	0	0	0	0	0	0
5	タイ	4,860	22,314	69,950	348,595	9,500	44,699	67,000	305,951
6	フィリピン	0	0	0	0	0	0	10,000	12,770
7	インドネシア	0	0	5,485	29,981	165	693	1,080	4,353
8	スペイン	0	0	95	540	0	0	58	757
9	イタリア	0	0	0	0	0	0	0	0
10	カナダ	0	0	0	0	0	0	0	0
11	アメリカ	10,560	21,630	46,612	95,192	2,720	5,203	20,590	42,301
12	メキシコ	0	0	0	0	0	0	0	0
13	ロシア	0	0	0	0	0	0	0	0
14	ペルー	0	0	49,120	69,027	0	0	330	479
15	アルゼンチン	0	0	0	0	0	0	11,290	24,575
16	ニュージーランド	200	988	1,064	8,079	120	1,171	735	5,529
合　計		148,484	292,076	2,040,517	4,181,488	345,040	796,327	2,168,506	4,623,401

Ⅱ．いか類輸入　国別通関実績　令和２（２０２０）年11月

（３）調製品

国　名		令和２年11月合計		令和２年 １月～11月累計		令和元年11月合計		令和元 １月～11月累計	
		数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円
1	韓国	12,300	8,358	64,807	95,636	3,100	4,781	42,843	54,235
2	中国	3,359,839	2,052,002	36,220,851	22,586,498	3,733,504	2,312,807	38,972,932	23,804,440
3	台湾	0	0	0	0	0	0	0	0
4	ベトナム	55,412	37,513	706,165	435,326	51,993	43,213	852,818	509,311
5	タイ	36,188	98,539	469,874	1,088,514	23,870	54,131	311,124	912,320
6	シンガポール	0	0	0	0	0	0	0	0
7	マレーシア	0	0	4,130	1,989	0	0	0	0
8	フィリピン	0	0	0	0	0	0	1,425	729
9	インドネシア	0	0	27,164	13,809	0	0	4,071	2,768
10	ミャンマー	0	0	0	0	0	0	3,928	1,888
11	インド	0	0	8,040	4,339	0	0	33,590	17,325
12	スリランカ	0	0	0	0	0	0	0	0
13	ノルウェー	0	0	0	0	0	0	0	0
14	スイス	0	0	0	0	0	0	0	0
15	ポルトガル	0	0	0	0	0	0	0	0
16	スペイン	500	393	8,893	18,058	1,263	3,607	13,011	32,592
17	イタリア	0	0	142	389	0	0	0	0
18	アメリカ	0	0	0	0	0	0	0	0
19	メキシコ	0	0	0	0	0	0	0	0
20	ペルー	619,237	238,729	3,157,847	1,415,472	155,614	72,250	4,141,184	2,088,113
21	チリ	11,980	5,436	14,020	6,439	0	0	0	0
22	アルゼンチン	0	0	0	0	0	0	0	0
23	オーストラリア	0	0	0	0	0	0	0	0
24	ニュージーランド	0	0	0	0	0	0	0	0
合　計		4,095,456	2,440,970	40,681,933	25,666,469	3,969,344	2,490,789	44,376,926	27,423,721

Ⅲ．農林水産統計

１.産地水産物流通統計　令和元（２０２０）年10月

（１）月別上場水揚量・価格

年　月	するめいか 生		するめいか 冷・近		するめいか 冷・遠		あかいか 生		あかいか 冷		合計
	上場 水揚量	価格	上場 水揚量	価格	上場 水揚量	価格	上場 水揚量	価格	上場 水揚量	価格	
平成25(2013)年	77,908	253	28,533	349	705	238	29	112	2,196	422	109,371
平成26(2014)年	73,793	249	24,932	337	157	331	0	184	4,652	348	103,534
平成27(2015)年	54,196	257	22,295	378	484	279	2	244	2,995	318	79,972
平成28(2016)年	23,657	519	19,912	641	797	398	2	249	3,162	479	47,530
平成29(2017)年	18,699	543	17,055	602	—	—	7	333	4,112	541	39,873
平成30(2018)年	15,141	530	11,133	611	—	—	1	355	4,632	481	30,907
令和元(2019)年	16,772	657	2,545	875	—	—	5	220	7,152	455	26,474
平成28年　１月	1,233	323	1,948	429	—	—	0	67	3	391	3,184
平成28年　２月	789	360	1,144	465	—	—	1	192	—	—	1,934
平成28年　３月	731	397	1,297	488	—	—	1	281	3	233	2,029
平成28年　４月	375	417	—	—	—	—	0	234	—	—	375
平成28年　５月	518	350	50	518	797	398	0	216	—	—	1,365
平成28年　６月	904	325	37	380	—	—	—	—	—	—	941
平成28年　７月	1,243	382	1,911	410	—	—	0	216	1,272	413	4,426
平成28年　８月	3,953	425	2,316	508	—	—	0	216	1,882	525	8,151
平成28年　９月	7,419	471	1,807	657	—	—	0	214	1	124	9,227
平成28年　１０月	3,064	716	2,781	786	—	—	0	290	—	—	5,845
平成28年　１１月	1,736	854	3,327	899	—	—	0	264	0	454	5,063
平成28年　１２月	1,618	823	3,293	731	—	—	0	323	1	188	4,912
計	23,583		19,911		797		2		3,162		47,452
平成29年　１月	410	692	958	752	—	—	0	251	1	570	1,369
平成29年　２月	279	602	231	835	—	—	0	441	39	486	549
平成29年　３月	190	525	376	840	—	—	0	383	482	582	1,048
平成29年　４月	109	442	28	863	—	—	1	184	0	398	138
平成29年　５月	272	386	23	857	—	—	0	108	13	539	308
平成29年　６月	1,399	429	7	536	—	—	—	—	—	—	1,406
平成29年　７月	2,606	515	1,455	480	—	—	—	—	1,684	557	5,745
平成29年　８月	2,780	583	2,335	632	—	—	5	333	1,892	517	7,012
平成29年　９月	4,225	568	3,060	633	—	—	0	236	—	—	7,285
平成29年　１０月	3,378	556	4,928	572	—	—	0	192	0	383	8,306
平成29年　１１月	1,693	509	2,369	545	—	—	0	417	0	415	4,062
平成29年　１２月	1,362	546	1,286	598	—	—	0	525	0	443	2,648
計	18,703		17,056		0		6		4,111		39,876
平成30年　１月	744	539	330	659	—	—	0	414	—	—	1,074
平成30年　２月	399	439	864	649	—	—	0	350	621	532	1,884
平成30年　３月	200	487	18	600	—	—	0	340	4	438	222
平成30年　４月	186	421	8	600	—	—	0	256	0	385	194
平成30年　５月	308	390	62	663	—	—	0	358	—	—	370
平成30年　６月	884	420	21	594	—	—	—	—	96	428	1,001
平成30年　７月	867	455	519	539	—	—	—	—	3,124	466	4,510
平成30年　８月	1,288	540	1,105	573	—	—	—	—	605	518	2,998
平成30年　９月	4,219	493	3,527	588	—	—	—	—	182	458	7,928
平成30年　１０月	2,641	591	2,324	597	—	—	0	719	0	387	4,965
平成30年　１１月	2,226	609	1,087	649	—	—	0	324	—	—	3,313
平成30年　１２月	1,191	584	1,268	694	—	—	0	251	0	343	2,459
計	15,153		11,133		0		0		4,632		30,918
平成31年　１月	382	580	192	685	—	—	0	140	—	—	574
平成31年　２月	525	534	658	697	—	—	0	220	34	529	1,217
平成31年　３月	302	551	2	761	—	—	2	245	—	—	306
平成31年　４月	193	578	—	—	—	—	2	268	—	—	195
令和元年　５月	220	382	—	—	—	—	—	—	—	—	220
令和元年　６月	596	395	—	—	—	—	0	393	—	—	596
令和元年　７月	1,090	458	380	608	—	—	0	5	3,658	505	5,128
令和元年　８月	2,277	507	128	723	—	—	—	—	4	602	2,409
令和元年　９月	2,999	646	486	939	—	—	0	77	3,028	396	6,513
令和元年　１０月	2,142	836	117	1,032	—	—	0	123	425	430	2,684
令和元年　１１月	4,237	788	262	1,281	—	—	0	117	—	—	4,499
令和元年　１２月	1,810	665	422	1,132	—	—	0	22	3	405	2,235
計	16,773		2,647		0		4		7,152		26,576
令和２年　１月	645	626	170	1,094	—	—	0	22	20	424	835
令和２年　２月	399	536	291	1,034	—	—	0	182	11	443	701
令和２年　３月	397	535	440	1,035	—	—	4	183	48	488	889
令和２年　４月	179	510	—	—	—	—	4	250	—	—	183
令和２年　５月	1,034	333	—	—	—	—	1	260	—	—	1,035
令和２年　６月	879	335	27	516	—	—	1	179	—	—	907
令和２年　７月	828	508	203	654	—	—	0	133	3,615	386	4,646
令和２年　８月	1,666	518	563	670	—	—	—	—	563	389	2,792
令和２年　９月	3,695	471	146	716	—	—	0	50	1,798	330	5,639
令和２年　１０月	4,223	563	669	718	—	—	0	64	1,167	330	6,059
計	13,945		2,509		0		10		7,222		23,686
対前月比(%)	114	119	458	100	—	—	338	128	65	100	107
対前年同月比(%)	197	67	572	70	—	—	20	52	274	77	226

注１：平成２２年１月分調査より、あかいかが調査対象品目となりました。
注２：平成２２年１月分調査より、調査対象漁港数から調査対象市場数に変更
注３：平成２１年度分については調査対象市場数に変更済みです。

Ⅲ. 農林水産統計

１．産地別水産物流通統計　令和元（２０２０）年10月

（２）累積上場水揚量・価格

単位　水揚量：トン　　価格：1kg当たり円

品　　目	累積の上場水揚量			累積の平均価格		
	2020年 １月～10月	2019年 １月～10月	対前年 同期比（%）	2020年 １月～10月	2019年 １月～10月	対前年 同期比（%）
するめいか（生）	13,945	10,714	130	499	605	83
〃　（冷,近海）	2,509	2,062	122	818	751	109
〃　（冷,遠洋）	－	－	－	－	－	－
あかいか（生）	11	5	195	210	221	95
あかいか（冷）	7,221	7,149	101	364	455	80
合　計	23,686	19,930	119			

注１：平成２２年１月分調査より、あかいかが調査対象品目となりました。

Ⅲ．農林水産統計

１．産地別水産物流通統計　令和元（２０２０）年10月

（３）漁港別水揚量・価格（令和２年10月）

漁港		するめいか 生		するめいか 冷、近海		するめいか 冷、遠洋		あかいか 生		あかいか 冷		水揚量
		水揚量	価格	水揚量	価格	水揚量	価格	水揚量	価格	水揚量	価格	合　計
1	函館	20	1,331	—	—	—	—	—	—	77	340	97
2	小樽	107	448	—	—	—	—	—	—	—	—	107
3	釧路	318	623	—	—	—	—	—	—	—	—	318
4	稚内	111	694	—	—	—	—	—	—	—	—	111
5	紋別	26	534	—	—	—	—	—	—	—	—	26
6	網走	115	644	—	—	—	—	—	—	—	—	115
7	羅臼	72	574	—	—	—	—	—	—	—	—	72
8	根室	38	863	—	—	—	—	—	—	—	—	38
9	歯舞	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
10	八戸	1,059	631	141	769	—	—	—	—	1,090	329	2,290
11	宮古	1,063	534	—	—	—	—	0	64	—	—	1,063
12	大船渡	12	745	—	—	—	—	—	—	—	—	12
13	釜石	14	617	—	—	—	—	—	—	—	—	14
14	気仙沼	0	1,034	—	—	—	—	—	—	—	—	0
15	女川	0	535	—	—	—	—	—	—	—	—	0
16	石巻	585	481	—	—	—	—	—	—	—	—	585
17	塩釜	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
18	小名浜	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
19	大津	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
20	波崎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
21	銚子	7	463	—	—	—	—	—	—	—	—	7
22	勝浦（千葉）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
23	三崎	0	1,965	—	—	—	—	—	—	—	—	0
24	沼津	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
25	焼津	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
26	新潟	24	666	—	—	—	—	—	—	—	—	24
27	小木（石川）	0	968	528	705	—	—	—	—	—	—	528
28	奈屋浦	0	444	—	—	—	—	—	—	—	—	0
29	舞鶴	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
30	勝浦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
31	串本	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
32	境	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
33	浜田	12	742	—	—	—	—	—	—	—	—	12
34	下関	23	412	—	—	—	—	—	—	—	—	23
35	八幡浜	17	386	—	—	—	—	—	—	—	—	17
36	福岡	32	570	—	—	—	—	—	—	—	—	32
37	唐津	70	494	—	—	—	—	—	—	—	—	70
38	松浦	245	436	—	—	—	—	—	—	—	—	245
39	長崎	157	512	—	—	—	—	—	—	—	—	157
40	佐世保	95	483	—	—	—	—	—	—	—	—	95
41	鶴見	0	216	—	—	—	—	—	—	—	—	0
42	北浦	0	72	—	—	—	—	—	—	—	—	0
43	油津	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
44	枕崎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
45	山川	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
46	鹿児島	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
47	那覇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
合計		4,223	563	669	718	—	—	0	64	1,167	330	6,059

—：事実のないもの　…：事実不詳又は調査を欠くもの　0：単位に満たないもの（例：0.4t→0t）　＊：訂正数値

Ⅲ．農林水産統計

２．冷蔵水産物流通統計　令和元（２０２０）年10月

月間入・出庫量及び月末在庫量

単位：トン

品　　目	令和２年10月 月末在庫量			令和２年10月 月間入庫量			令和２年10月 月間出庫量			令和２年10月 月末在庫量			10月末 在庫量	対前年同月比		
	計	産地	消費地	計	産地	消費地	計	産地	消費地	計	産地	消費地	前月比 %	月間 入庫量	月間 出庫量	月末 在庫量
するめいか (まついかを含む)	**13, 055**	**10, 568**	**2, 486**	**3, 853**	**3, 302**	**551**	**2, 695**	**1, 890**	**805**	**14, 212**	**11, 981**	**2, 231**	**109**	**111**	**78**	**137**
こういか (もんごういかを含む)	3, 058	756	2, 303	909	283	626	876	192	685	3, 091	848	2, 244	101	85	80	92
その他のいか類	21, 959	6, 738	15, 221	6, 092	2, 276	3, 816	5, 077	1, 303	3, 774	22, 974	7, 712	15, 262	105	123	94	103
合　　計	38, 072	18, 063	20, 009	10, 854	5, 862	4, 992	8, 648	3, 384	5, 264	40, 278	20, 541	19, 737	106	115	87	112

注：「対前年同月比」は、前年同月より引き続き調査を行っている工場のみで算出しています。

全国いか組合報第631号 (B)
（非売品）

編集・発行	全国いか加工業協同組合
住　　所	〒113-0034 文京区湯島3丁目14番8号 加田湯島ビル6階
電　　話	03-3834-3731
F　A　X	03-3834-3735
発 行 日	令和3年1月1日
作成協力	株式会社マイトベーシックサービス